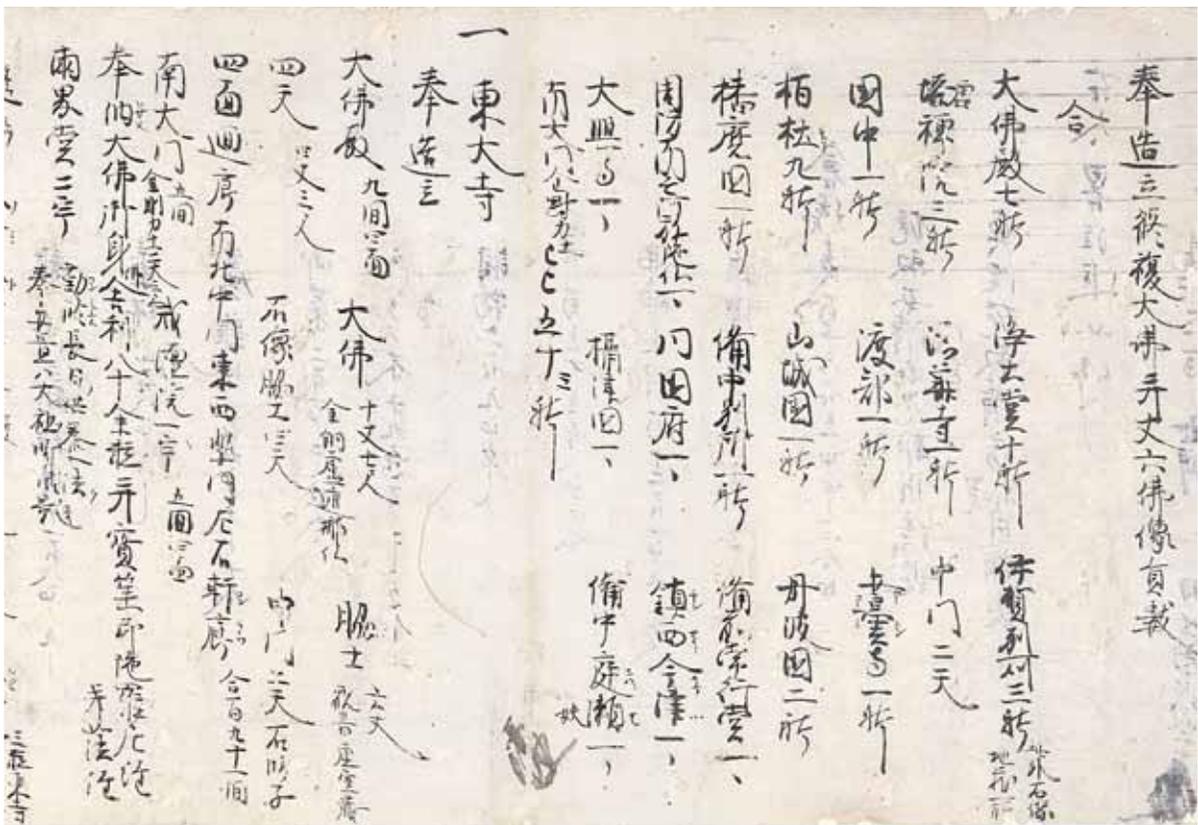


5 南無阿弥陀仏作善集 (重要文化財)

S 貴一七・八。一巻。縦二九・四cm、  
全長一六五・〇cm。

俊乗房重源 (一一二一—一二〇六) が、晩年の建仁三 (一一二〇—二一) 年頃、自らの作善 (仏教において功德があるとされる行業) を記した一種の自伝で、自筆ともいわれる。重源は武士の子として生まれ、醍醐寺で出家し法華経修行に励む持経者となり、念仏信仰にもしたがった。「南無阿弥陀仏」とは、念仏信仰による自称。平氏に焼き討ちされた東大寺 (4 吾妻鏡参照) の復興のため人々に勸進を行った。後白河法皇や源頼朝の支援も得た。作善集には、東大寺や別所 (宗教活動の拠点) の造営、中国の阿育王山に舍利殿建設のため材木を送ったこと、人々に阿弥陀仏名を授けたことなどが記される。掲載部分には、修造した伽藍・仏像の目録と東大寺造営が記される。紙背は「備前国麦進未并納所下惣散用状」で、重源が東大寺復興の財源として賜った知行国備前国の麦収納に関する文書。

〔参考〕『大日本史料』四一九、建永元年六月四日条 (重源伝)。奈良国立文化財研究所『南無阿弥陀仏作善集』 (真陽社、一九五五)。小林剛編『俊乗房重源史料集成』 (吉川弘文館、一九六五)。小林剛『俊乗房重源の研究』 (有隣堂、一九八〇改版)。



5 南無阿弥陀仏作善集 (重要文化財)